かながわワールド～あすの地球と子どもたち「２００９秋の収穫祭」

人間科学科２年　人科祭実行委員１期生　三觜　いぶき

＊人科祭実行委員＊

『大学生活、人とたくさん関わって色んなことを経験したい。絶対、その過程で何か自分にプラスされるものがあるはず。でも、どこへ足をのばそうかなぁ?』…こう思っていたのは、ちょうど夏に差しかかる頃だった。そんな時、人間科学部の先生から、〝人科祭実行委員〟にならないかというお声掛けを頂いた。私にとって、逃してはならないグッドタイミングであった。

人間科学部は、２００９年度になって漸く１年生から４年生までが揃った、新しい学部である。それをきっかけに発足することになったのが、「人科祭実行委員」というわけだ。

しかし、いざ決定メンバーで集まってみると、そこにいたのは２年生と１年生のみ。てっきり、先輩がいるかと思っていたのに、私たち２年生が最高学年!?正直、「まだ先輩たちのように専門的な知識にあまり触れていない私たちに、一体何が出来るのだろうか」、そう感じた。

余談ではあるが、私はゴキブリが嫌いだ。しかし、周りに私より怖がっている人がいた時、なぜか私は強くなって退治しに行ったことがある（笑）…というわけで、そんな性格が功を奏したのか、ただやる気が満ちていたのか、人科祭実行委員の副委員長として活動を開始した。

＊Ｔｖｋ主催「２００９秋の収穫祭」＊

８月某日、人間科学部の松本先生から、収穫祭に出てみないかというお声掛けをいただき、実行委員みんなで参加することになった。収穫祭とは、毎年テレビ神奈川（Ｔｖｋ）主催で行われている活動で、先生が私たちも参加させてもらえるように、テレビ局の方にお願いしてくださった。

▲左：お世話になったテレビ局の方
　他：収穫祭に参加した私たち人科祭実行委員

＊活動内容＊

収穫祭は、十月三十一日・十一月一日の計2日間行われた。開催場所は、横浜の日本大通りにある「象の鼻パーク」。私たちはその一角を提供して頂いた。

まず、私たちが考えたのは、①私たち人間科学部に関係する形での出展がしたい、②社会貢献がしたい、③地域の方とコミュニケーションがとりたい、という3点であった。また、『せっかくの場だからめっちゃ目立つように大きなアートをしたいよね！』…こういう考えもあった私たちは、何をしようか悩んだ。

試行錯誤した結果、活動場所である「象の鼻パーク」に因んで、大きなゾウを作ろうということになった。また、地域の人にも参加していただいて、私たちが作ったゾウに、色取り取りのペーパーフラワーを貼ってもらって、カラフルにアートしてもらおうということになった。〝芸術の秋〟である。

しかし、ただ参加するという形では、地域の人は興味をもってくれないだろう。したがって、材料費として50円から頂き、その代わりにペーパーフラワーをゾウに貼ってもらい、風船をプレゼントすることにした。その風船は、ハロウィンに因み、かぼちゃの形の風船にした。たまに、「一緒に作りたい！」という子や大人の方がいらっしゃったので、その方たちには、私たちの中の〝かぼちゃ作りの名人〟が作り方を教えた。そうすることで、地域の方とのコミュニケーションをとることもできた。（←左：かぼちゃづくりの名人）

＊募金＊

材料費として５０円からいただいたお金は、『ＮＰＯ法人スペシャルオリンピックス日本』様へ、寄付をした。このようにしたのは、私たち人間科学部にはスポーツコースがあるため、それに関する社会貢献がしたいと考えたからである。

スペシャルオリンピックス（ＳＯ）とは、知的発達障害のある人たちに、様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を、年間を通じ提供している国際的なスポーツ組織である。同組織は、１９６８年に故ケネディ大統領の妹：ユニス＝シュライバーによって設立された。組織名が複数形で表わされているのは、大会に限らず、日常的なスポーツトレーニングから世界大会まで、多種多様な活動が年間を通して、世界中で行われていることを意味している。

私たちが集め、寄付することができた金額は、３０、２４５円！！この寄付金が、知的発達障害のある人たちの、スポーツの意欲、記録更新、それに伴う喜びの分かち合いや、更なる目標設定への手助けになれば幸いである。

▲寄付金￥30,245

この寄付金額が、どの程度手助けになることができるのかは分からない。しかし、正直こんなに寄付金を集めることができるとは思っていなかった。このような成果を出すことができたのは、力を貸してくださったＴｖｋの方々、神大の松本先生ならびに学生課の方、ゾウ作りのためのペットボトル集めにご協力いただいた神大の清掃員の方々、現地までの荷物を運ぶための車を出して頂いた実行委員の保護者の方、そして私たちの活動に参加し、協力してくださった地域の方々のお陰である。心から感謝しています。ありがとうございました。

＊ｅｃｏだゾウ＊

ところで、私たちが作成したゾウは〝ｅｃｏだゾウ〟という名前で、思い入れがたくさんである。また、その名の通り、このゾウはゴミのペットボトルとゴミの傘で作成した。

ゾウを作ると決めたはいいものの、どんな材料で、どんな方法でゾウなんかができるのか分からず、悪戦苦闘であった。様々な案を考え、時間がなくなっていき焦り始めたそんな頃…実行委員長：児平君の名デザイン付きの名案が採用された。『この人、天才か！！』と思った。

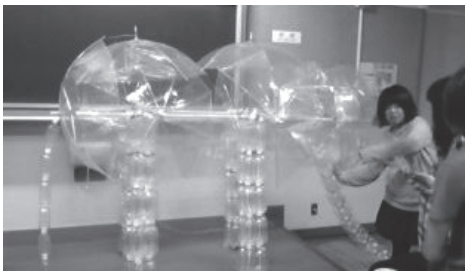
順調にゾウ作りを開始した。まずは、神大の清掃員さんにご協力をお願いして、大学で回収されたペットボトルを集めた。もちろん、収集場にあるペットボトルは、洗われていないし、中身がまだ入っているものもあった。昼休みや各自の空き時間を利用して、作るのに都合のよいペットボトルを選んでは集め、集めては洗った。

（…毎日毎日、大量のペットボトルが捨てられているという現実に驚きつつ…。）

きれいに洗ったペットボトルと同時に、ゴミの傘も集め、いよいよゾウの組み立てが開始された。まずは脚をつくるためにペットボトルにキリで穴をあけ、針金で繋いでいった。ペットボトル集めといい、この脚を作る作業といい、とても地道な作業だった。

▲ペットボトルで脚を作る様子

みんなで頑張った結果、完成に近づき、実験として組み立ててみたこの時のゾウ。私たちは思わず『可愛い――――！！』と言った。それだけみんな頑張ったんです♪



＊準備から当日までを通して感じたこと＊

①最後まで諦めずにやり通した達成感が大きかった。収穫祭当日に近づくにつれて、時間の足りなさに焦り、『やばい、やばい』と何度言ったか分からない。しかし、みんながちゃんと協力して、分担して作業すれば成功するということを実感した。

②伝えることの難しさを痛感した。まず、収穫祭当日、集めるお金が寄付されるということを、地域の方に伝えることが難しかった。意図を分かってくださる方もいれば、時にはその意図に反対もされ、活動中、精神的にきついことがあった。私たちが伝えなければならないことを、上手く相手に伝えることができないというのは、もどかしかった。

また、活動内容をＴｖｋさんが昼の番組で放送してくださるとのことで、収録をしていただいた。しかし、私たちに与えられた時間は数十秒。一言で簡潔に、アピールしたいことを伝えることの難しさを味わった。しかし、同時に感じたことは、メディアの影響力の大きさである。昼の番組で放送してくださったおかげで、『テレビを見てきた』と言って来場してくださった地域の方がいらっしゃったからである。Ｔｖｋの方のご厚意に、心より感謝したい。

③コミュニケーションの楽しさを感じた。来場してくださる地域の方は、お子さま連れのご家族を中心に、多くの方が私たちのブースに来てくださった。私個人的には、ペット連れの方が多かったのも、かなり魅力的であった。ご家族で来ていらっしゃった方とは、お子さまがらみのお話を、ペット連れの方とはその動物のお話をするのが楽しかった。

また、ご家族に神大出身者がいるとのことで、話しかけてくださる方は、私たちを応援してくださり、とても励みになった。

＊今後に生かす＊

この度の経験で自分にプラスできたことは、仲間の大切さ、仲間の凄さ、見通しの良い準備の大切さ、コミュニケーションの難しさや楽しさである。また、自分たちの成し遂げたいことを達成できたのは、ものすごく多くの人々を巻き込み、多大な協力を得たからであるということを、身に染みて感じた。本当に感謝しています。今後の活動にも、私自身の今後の人生でも、今回プラスされたことを、頭にも心にも体にも留めて、生かしていければと思う。